

アルミニウム製庇 RSバイザー 取扱説明書

お客様へ

製品をいつまでも安全に、そして美しく使って頂くために、この説明書を必ずお読み頂き、お手元に保管くださいますよう、お願い申し上げます。

注 意

製品の安全を確保するために、以下の点をお守りください。

- ・転落の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ・庇が破損する恐れがありますので、積雪80cmを超える前に必ず雪降ろしを行ってください。

注 意

いつまでも製品を美しく保つために、以下の点をお守りください。

アルミニウムは耐蝕性の良い素材ですが、排気ガス、パイ煙、砂、泥などが表面に付着したまま長期間放置しますと、化学的反応や電気化学反応などが表面を侵し、腐食を発生することもあります。定期的なメンテナンスを行うことをお勧めします。

かるい汚れの場合

水で濡らした柔らかい布やスポンジなどで汚れを拭き、その後、水をかけて汚れを流してください。手の届かない場所はモップ等を使用し庇には乗らないようにしてください。

落ちにくい汚れの場合

中性洗剤をぬるま湯でうすめ、柔らかい布やスポンジを使用し汚れを落とします。そのあと洗剤が残らないように、十分水洗いをしてください。洗剤が残っていると腐食の原因となります。

《清掃の目安》

立 地 条 件	清 掃 回 数
臨海工場地帯	1 ～ 2 回 / 年
海岸・工業地帯	1 回 / 年
市 街 地	0.5 ～ 1 回 / 年
田 園 地 帯	0.5 回 / 年

アルミニウム製 庇

(R S バイザー RS-K・KT・KR 型)

施 工 要 領

確実な施工を行い、製品の安全を確保するため、施工前にこの「施工要領」を必ずお読みください。

— 目 次 —

施工上の注意点	_____	1
部材名称	_____	2
アンカー取付要領	_____	3
施工手順	_____	3
先端見切材が2本以上つながる場合	_____	7
先端見切落し口 取付手順 (K T 型)	_____	9
カバー材 (小) が2本以上つながる場合	_____	9
カバー材 (大) が2本以上つながる場合	_____	10

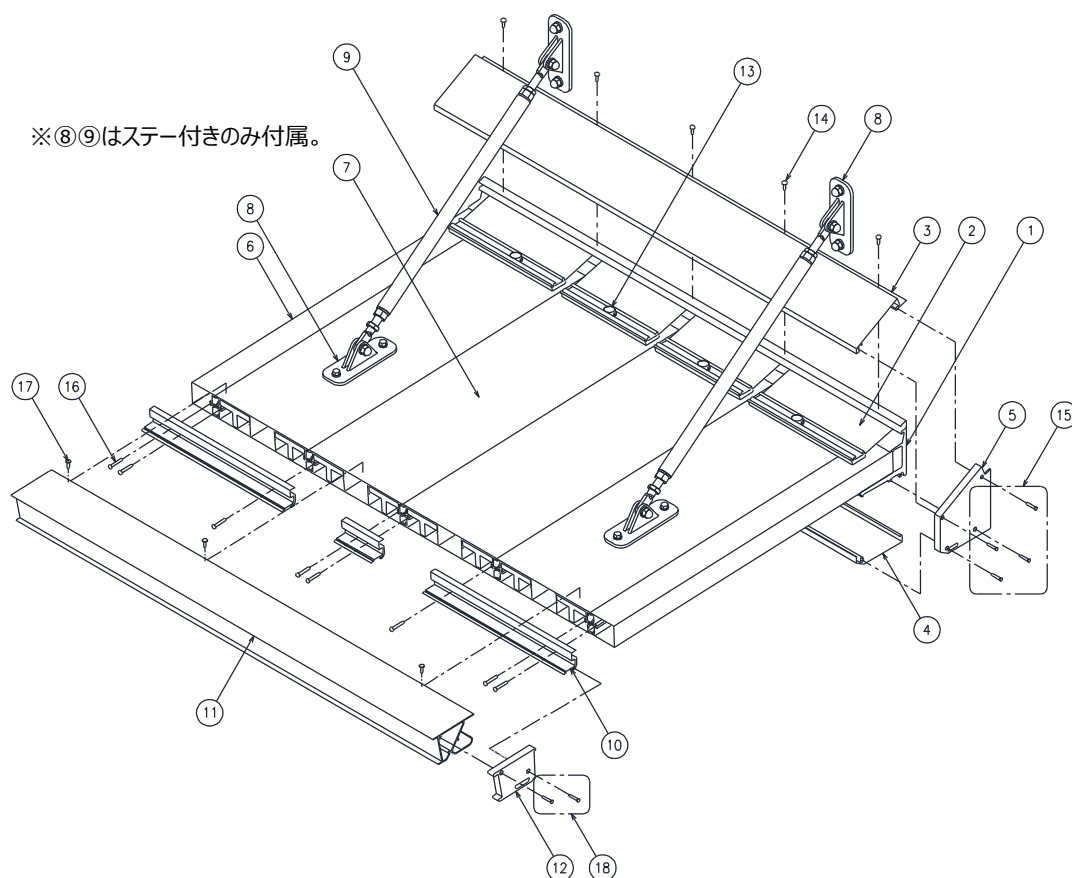


施工上の注意点

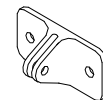
- ☐ 転落や破損の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ☐ ねじやボルトは全て確実に締めてください。
- ☐ 施工後、ねじやボルトにゆるみやガタつき、その他使用上危険な箇所等がないか確認してください。
- ☐ 庇の角度は指定角度範囲内で使用してください。
- ☐ 正規の施工方法以外での取付けや、改造等を行わないでください。

※ 改良のため、予告なく製品の一部を変更する場合があります。御了承ください。

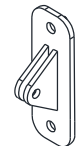
■ 部材名称



⑧【出幅 2000 mm以下】
壁側の固定用ステー取付ブラケットには「横型」と「縦型」があります。アンカー取付の際は次頁を参照してください。

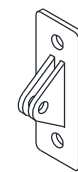


【横ブラケット】



【縦ブラケット】

⑧【出幅 2001 mm以上】
壁側の固定用ステー取付ブラケットが「縦ブラケット」になります。アンカー取付の際は次頁を参照してください。



【縦ブラケット】

(部材名称 一覧表)

番号	部 材 名 称	備 考
①	壁軸材	
②	パネル軸材	A (L=220) 、 B (L=180) 、 C (L=220)
③	カバー材 (大)	
④	カバー材 (小)	
⑤	壁軸材小口蓋	左右各 1 枚 ※アルミ板製あり
⑥	端部材	幅 50、100
⑦	中間材	幅 200 ※内部に防音材
⑧	固定用ステー取付ブラケット	中間材側・壁側 ※「縦型」「横型」あり、ただし出幅 2001 mm以上は全て縦型
⑨	固定用ステー	ステンレス製 (φ22、φ27.2、φ32、φ38)
⑩	先端見切ブラケット	L=80、L=300、L=400、L=480
⑪	先端見切材	K 型 (先端樋無)、KT 型 (先端樋付)、KR 型 (先端 R 形状)
⑫	先端見切小口蓋	左右各 1 枚 ※アルミ板製あり
⑬	中間材取付用貫通ボルト	六角ボルト M8×65、平座金、フランジ付ナットセット スチール製 三価クロメート
⑭	カバー材 (大) 取付ねじ	十字穴付きなべドリルねじ φ4×13 ステンレス製
⑮	壁軸材小口蓋取付ねじ	十字穴付き皿タッピンねじ φ4×16 (小頭 D6、ガイド付) ステンレス製
⑯	先端見切ブラケット取付ねじ	十字穴付きトラスタッピンねじ φ4×25 (ガイド付) ステンレス製
⑰	先端見切取付ねじ	十字穴付き皿ドリルねじ φ4×13 (小頭 D6) ステンレス製
⑱	先端見切小口蓋取付ねじ	十字穴付き皿タッピンねじ φ4×16 (小頭 D6、ガイド付) ステンレス製
⑲	歯付座金+角座金	内歯付座金 スチール製 ユニクロめっき、32×32×t2.3 (M12 用) スチール製 三価クロメート

※W 幅が 4000 mmを超える場合は、下記の部材にジョイント材が追加されます。詳しい取付方法は 6 ページを参照してください。

③カバー材 (大) / ④カバー材 (小) / ⑪先端見切材

※先端見切ブラケット L=300、L=400 の一部は端部に使用します。 ※パネル軸材 A (L=220) 、 C (L=220) は端部に使用します。

※取付順序については、次頁「施工手順」を参照してください。

■ アンカー取付要領

①壁軸材用アンカーは右図のように取付面から 25 mm突き出すようにしてください。

②ステー取付ブラケット用アンカーは右図のようにブラケットの形状により、寸法が異なります。

・横ブラケット（M8 アンカー）使用時

→取付面から 15 mm

・縦ブラケット（M8 アンカー）使用時

→取付面から 15 mm

・縦ブラケット（M12 アンカー）使用時

→取付面から 20 mm

※横ブラケットは、アンカーを左右 2 ヶ所で固定します。詳しくは別紙図面を参照してください。

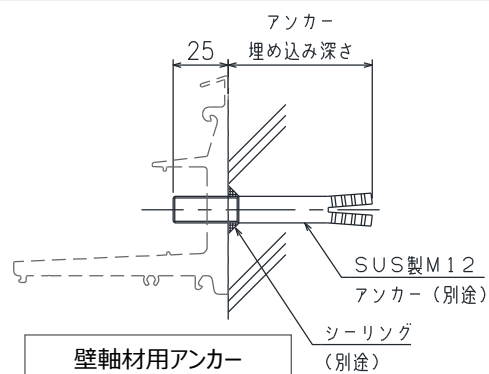
※縦ブラケットは出幅 1501 mm 以上の場合アンカーが M12 になります。

※ステー取付ブラケットを袋ナットで固定する場合も同寸法になります。

※アンカーの埋め込み深さは使用するアンカーの規定寸法を守って取付けてください。

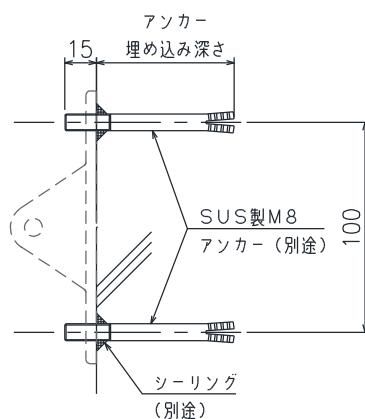
※内部への浸水防止のためにアンカーの周りに防水シール（別途）を施してください。

※あと施工アンカーによる施工は RC 躯体のみです。

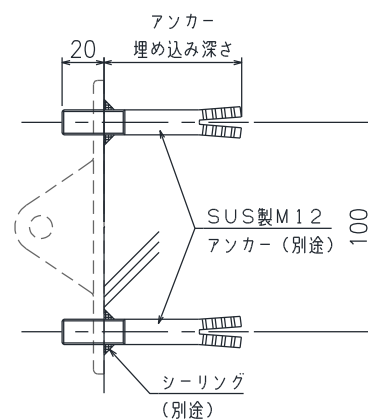


注 意

アンカーの埋め込み深さは、仕上モルタルやタイル等の仕上材の厚みを含まず、躯体部分に確実に入るように入してください。



縦ブラケット／横ブラケット
（M8 アンカー）使用時



縦ブラケット（M12 アンカー）使用時

ステー取付ブラケット用アンカー

※アンカー取付位置については、別紙図面にてご確認ください。

■ 施工手順

1

アンカー図に基づき墨出しを行い、アンカーを取付けます。

・壁軸材用アンカー：M12（別途）

・ステー取付ブラケット用アンカー：

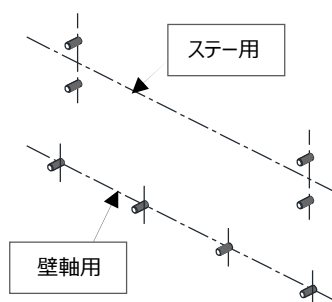
横ブラケット使用時→M8 アンカー（別途）

縦ブラケット使用時（出幅 1500 mm 以下）→M8 アンカー（別途）

縦ブラケット使用時（出幅 1501 mm 以上）→M12 アンカー（別途）

（用意するもの）

M8 アンカー（別途）、M12 アンカー（別途）



注 意

躯体によりアンカーピッチを変更する場合は、壁軸材に新設穴をあけて取付けてください。アンカー数は減らさないでください。

2

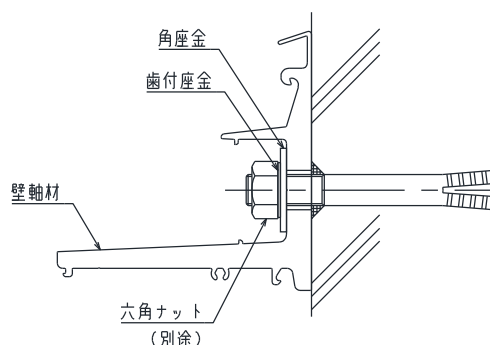
壁面の出入りを調整して壁軸材・ステー取付ブラケットを取付け、アンカーを締付けます。

※付属の「**歯付座金**」「**角座金**」を必ず使用してください。（右図参照）

※水勾配を適正に確保しないと水漏れの原因になります。

（用意するもの）

壁軸材、ステー取付ブラケット、歯付座金、角座金、スプリングワッシャー（別途）、六角ナット（別途）



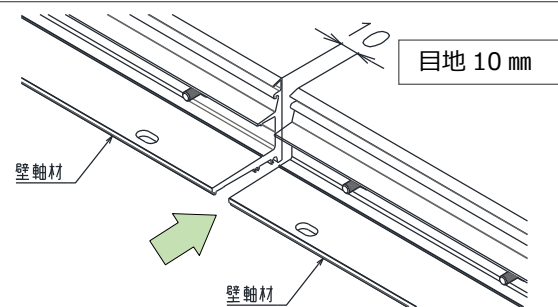
3

(壁軸材が 4000 mmを超える場合)

壁軸材が 2 本以上になる場合は、壁軸材同士の連結部に **10 mmの目地** **を設けて取付け**てください。

(用意するもの)

壁軸材、ステー取付ブラケット、歯付座金、角座金、スプリングワッシャー (別途)、六角ナット (別途)



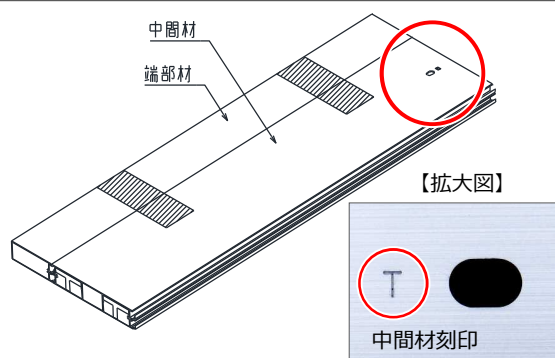
4

最初に取り付ける端部材 (左端用) と中間材を養生テープ等で一体化してください。

※組立終了まで端部材と中間材は離れないようにしてください。

(用意するもの)

端部材、中間材



注 意

中間材には上下があります。貫通ボルト取付穴脇に刻印がある面を上側になるように取付けてください。

(左下図/拡大図参照)

上下逆に取付けると水漏れの原因となります。

5

端部材と中間材を**壁軸材の突起に当たるまで差し込み**、壁軸材にセットします。

※施工は壁に向かって左側から施工します。

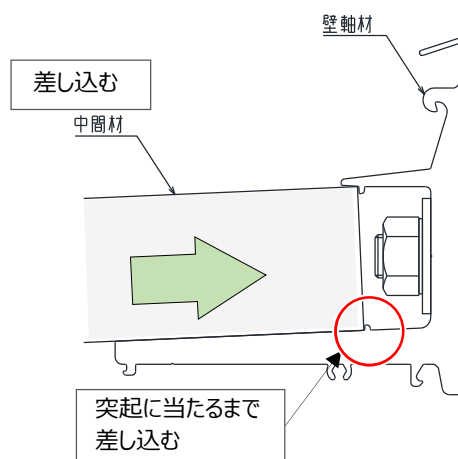
※ステー取付用中間材には、あらかじめステー取付ブラケットがセットされています。順番を間違えないよう注意してください。

(用意するもの)

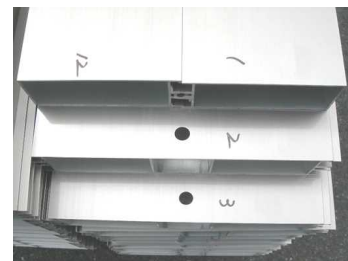
端部材、中間材

ステー取付用中間材

(※ステー付きのみ)



ステンカラー時の注意点



端部材、中間材は壁に向かって左から番号の小さい順に取り付けてください。(上写真参照)

6

中間材をパネル軸材で挟み込みます。

パネル軸材は右図のように、

①上部を壁軸材に引っ掛けて、

②回転させるように取付けます。

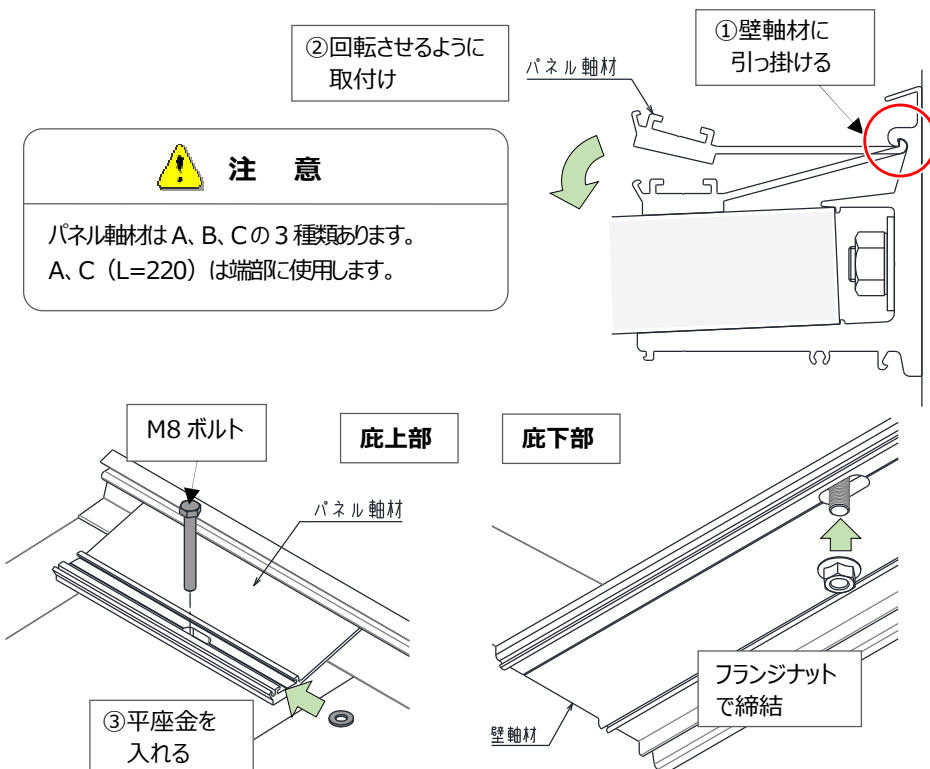
③パネル軸材に平座金を入れて、六角ボルト、フランジナットでパネル軸材と中間材、壁軸材を締結します。

(用意するもの)

パネル軸材 (A、B、C)

六角ボルト

フランジナット、平座金、中間材



7 (ステー付きの場合)

固定用ステーを取付けます。別紙「追加 施工要領／固定用ステー」を参照し取付けてください。

※底本体の角度は、標準設定 87.5°になります。

(用意するもの) 固定用ステー

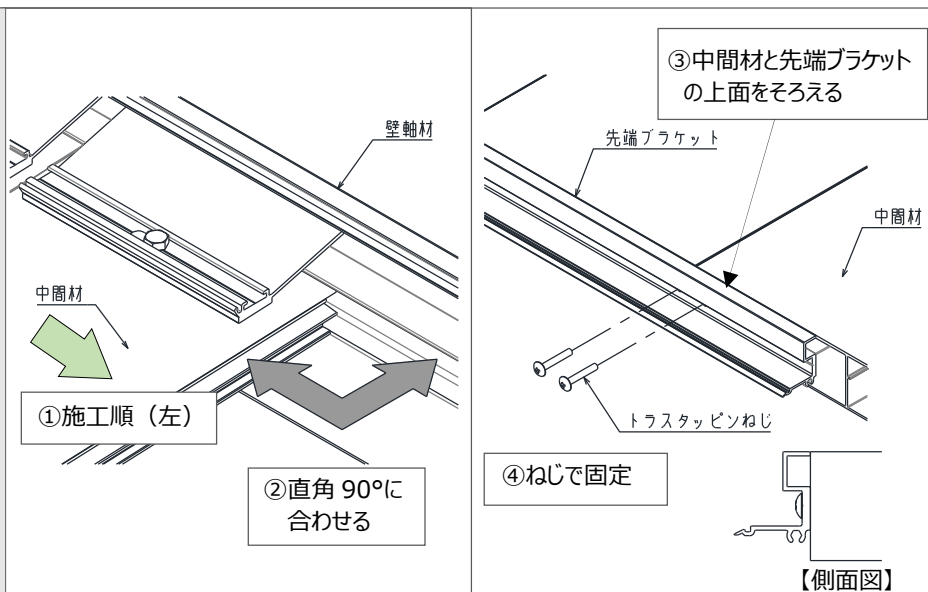
8

①手順 6 の要領にて中間材およびパネル軸材を左側から順に施工します。

②中間材と壁軸材を直角に合わせ、
③2～3 本毎に先端をそろえて④先端ブラケットをトラスタッピンねじにて固定します。
手順 6～8 を繰り返し、全ての中間材を壁軸材に取り付けます。

※先端ブラケットの上面と中間材の上面を揃えて別紙「先端ブラケット割付図」に従って固定してください。

(用意するもの)
先端ブラケット、トラスタッピンねじ



注 意

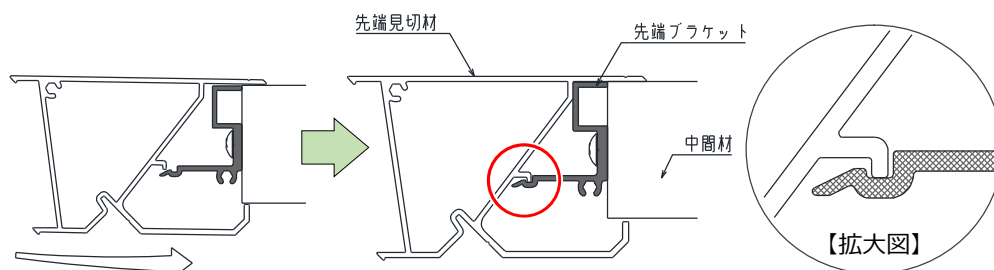
中間材を奥まで差し込んでいなかったり、直角がでないで先端がそろわなくなる事があります。

少なくとも 1 m に 1 回は直角と幅を確認してください。 先端は必ずそろえてからブラケットの取付けをしてください。

9

先端見切材を取付けます。
先端見切材をやや上向きにし、正面からセットします。

※**拡大図の状態**になっていることを確認してください。
(用意するもの) 先端見切材

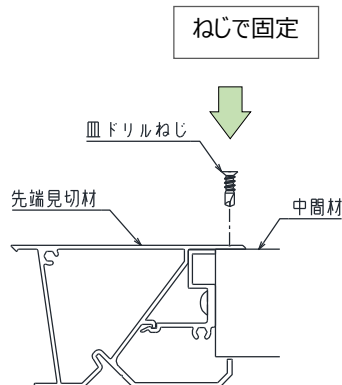


10

先端見切材上部の穴に合わせて付属の皿ドリルねじで固定します。

※ねじ固定時に中間材と先端見切材の間に切粉が入らないよう注意してください。

(用意するもの)
先端見切材、皿ドリルねじ

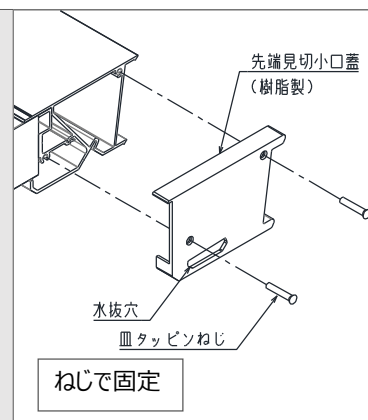


11

先端見切小口蓋を付属の皿タッピンねじで取付けます。

※小口蓋には「樹脂製」と「アルミ切板製」があります。「樹脂製」の場合は先端見切材に被せるようにして取付けてください。

(用意するもの)
先端見切小口蓋、皿タッピンねじ



警 告

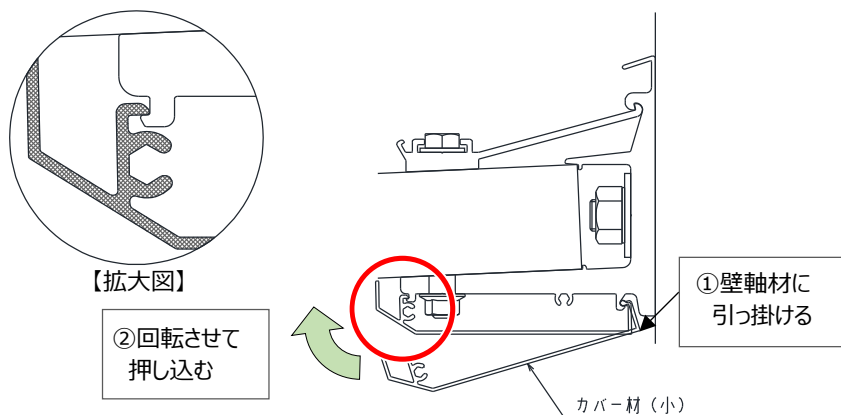
小口蓋の水抜穴はふさがらないでください。水漏れの原因になります。

1 2

カバー材（小）を取付けます。
右図のように①壁軸材に引っ掛け、②回転させてパチンと音がするまで強く押し込みます。

※**拡大図の状態**になるまで強く押し込みます。押し込みにくい場合は当て木をして軽く叩いてください。

（用意するもの）カバー材（小）



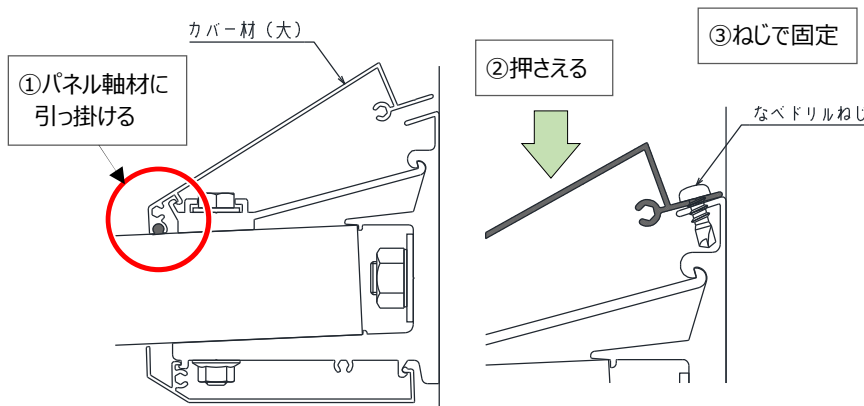
1 3

カバー材（大）を取付けます。
①カバー材（大）をパネル軸材に引っ掛け、
②カバー材（大）を押さえながら③付属のなべドリルねじで壁軸材に固定します。

※カバー材（大）がパネル軸材に引っ掛かっていることを確認してください。

※両端部は 200 mm 以内、それ以外はピッチ 600 mm 以内で取付けてください。

（用意するもの）
カバー材（大）、なべドリルねじ

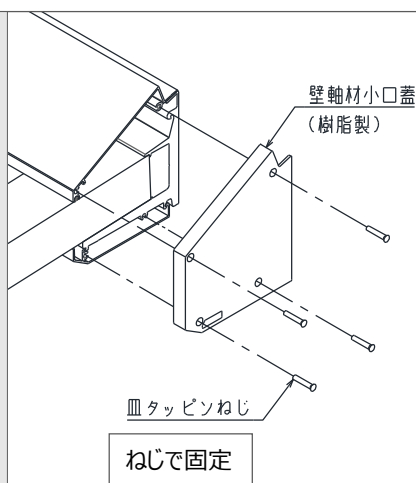


1 4

壁軸材小口蓋を付属の皿タッピンねじで取付けます。

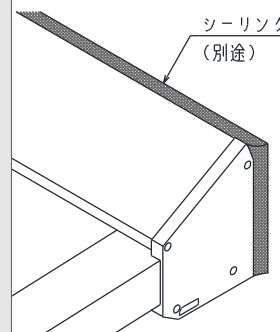
※小口蓋には「樹脂製」と「アルミ切板製」があります。「樹脂製」の場合は先端見切材に被せるようにして取付けてください。

（用意するもの）
壁軸材小口蓋、
皿タッピンねじ

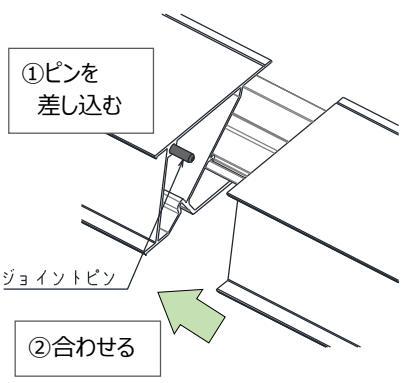


1 5

壁軸材上部・端部に防水シール（別途）を施します。



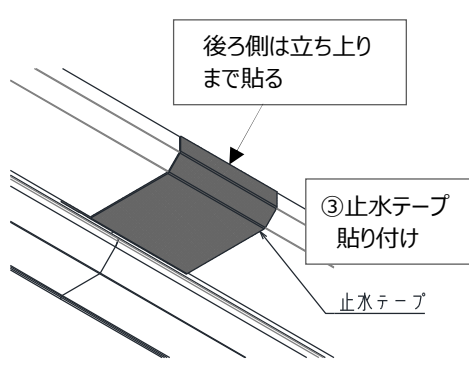
【 先端見切材が 2 本以上つながる場合 】 K・KR 型 先端見切ジョイントカバー材 取付手順



①ピンを差し込む

ジョイントピン

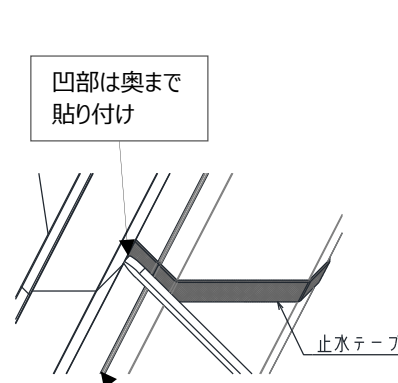
②合わせる



後ろ側は立ち上りまで貼る

③止水テープ貼り付け

止水テープ



凹部は奥まで貼り付け

※V 溝部隙間が出来ないようにへらで押さえる

止水テープ

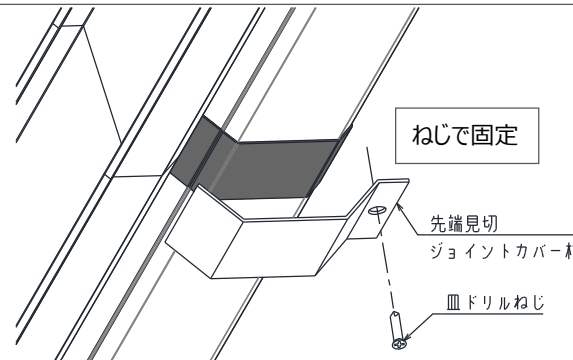
1

①先端見切材の片側に「ジョイントピン」を差し込み、②先端見切材同士を合わせます。
 ③目地部分に付属の止水テープを貼り付けます。
※止水テープはへら等を用いて隙間が出来ないように押さえてください。(右図参照)
 (用意するもの) ジョイントピン、止水テープ

2

先端見切ジョイントカバー材を取付けます。
 凹部に差し込み、付属の皿ドリルねじで中間材に固定してください。

(用意するもの)
 先端見切ジョイントカバー材、
 皿ドリルねじ



ねじで固定

先端見切ジョイントカバー材

皿ドリルねじ

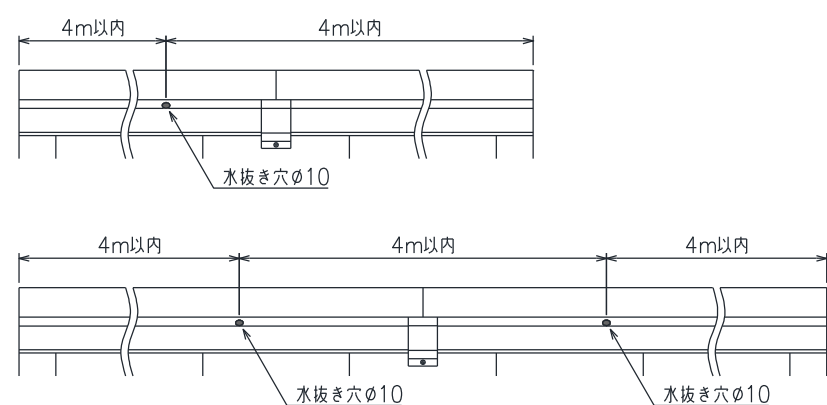
【 先端見切材が 2 本以上つながる場合 】 K・KR 型 先端見切水抜き穴 加工手順

1

先端見切材／天井面に水抜き穴の位置を決めます。

※降雨時に水抜き穴から雨水が出ますので、出入口付近をさけて穴を開けてください。

※**先端見切端部から水抜き穴までの距離は 4m 以内**にしてください。また、**水抜き穴間の距離も 4m 以内**にしてください。



4m以内

4m以内

水抜き穴φ10

4m以内

4m以内

4m以内

水抜き穴φ10

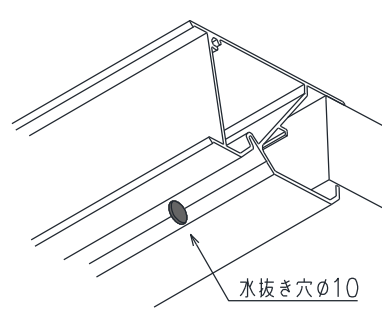
水抜き穴φ10

2

位置決めした V 溝部にφ10 の穴加工を行います。(右図参照)

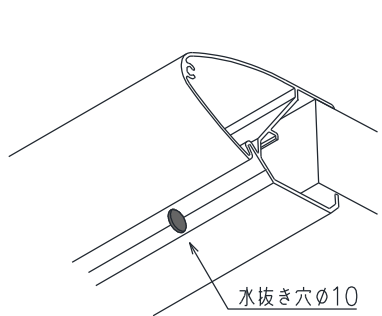
※漏水の原因になりますので、穴の大きさを守ってください。

※穴加工時に発生したバリは除去してください。



RS-K 型

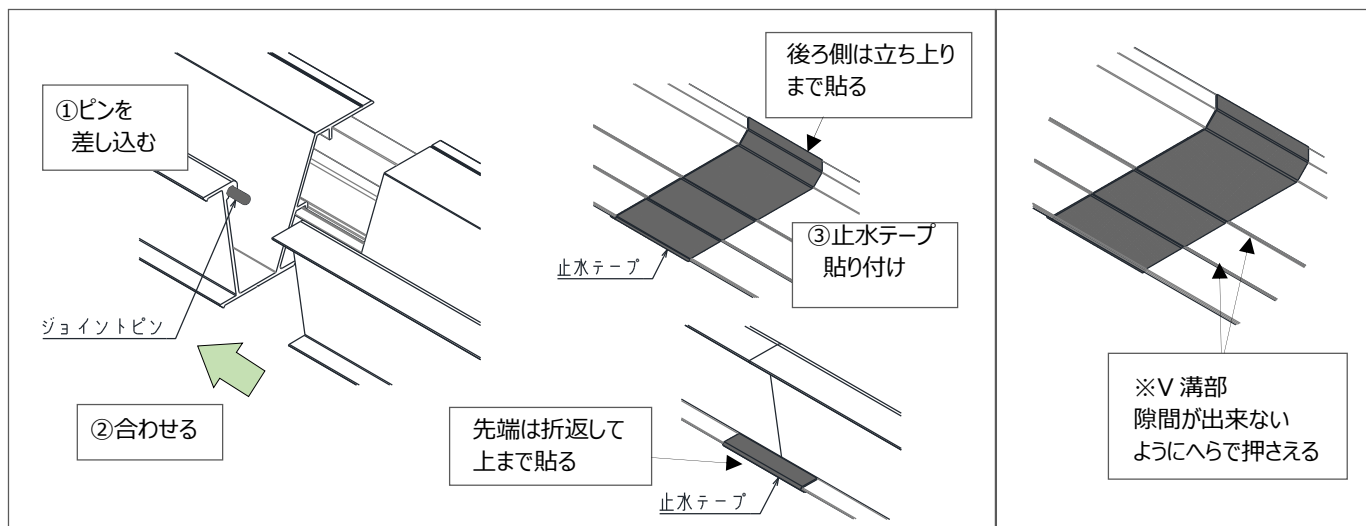
水抜き穴φ10



RS-KR 型

水抜き穴φ10

【 先端見切材が 2 本以上つながる場合 】 KT 型 先端見切ジョイントカバー材 取付手順



1

①先端見切材の片側に「ジョイントピン」を差し込み、②先端見切材同士を合わせます。

③目地部分に付属の止水テープを貼り付けます。

※止水テープはへら等を用いて隙間が出来ないように押さえてください。(上図参照)

(用意するもの) ジョイントピン、止水テープ

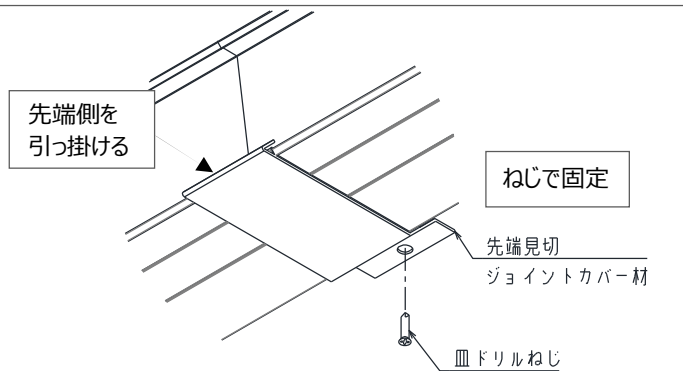
2

先端見切ジョイントカバー材を取付けます。

先端側を引っ掛け、付属の皿ドリルねじで中間材に固定してください。

(用意するもの)

先端見切ジョイントカバー材
皿ドリルねじ

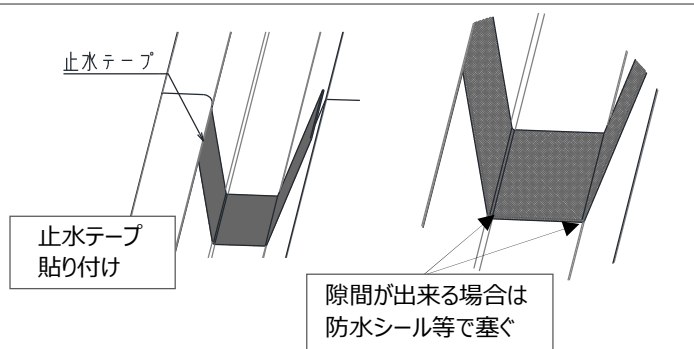


3

先端見切材の突き当て部内側に止水テープを貼り付けます。入隅部はへら等を用いて隙間が出来ないように押さえてください。

(用意するもの)

止水テープ



4

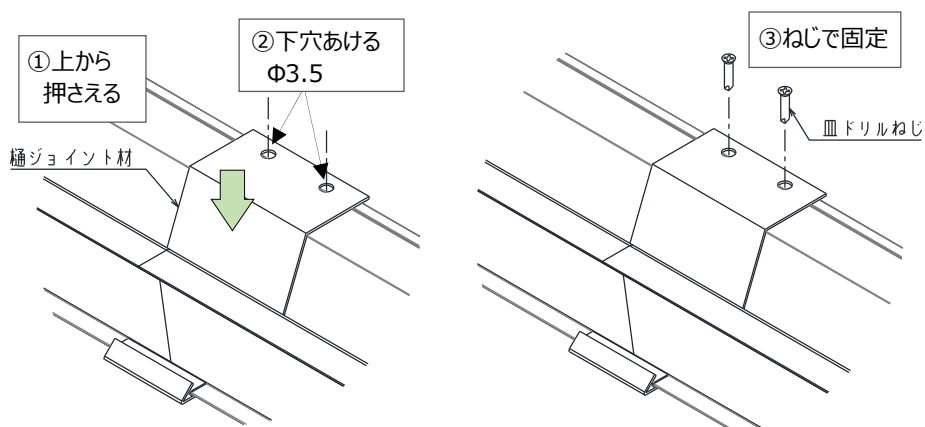
樋ジョイント材を取付けます。

①樋ジョイント材を上から押さえてはめ込みます。この時「カチッ」と音がするまで確実にはめ込んでください。

②先端見切材に下穴 (φ3.5) をあけて、③付属の皿ドリルねじで固定してください。

(用意するもの)

樋ジョイント材、皿ドリルねじ

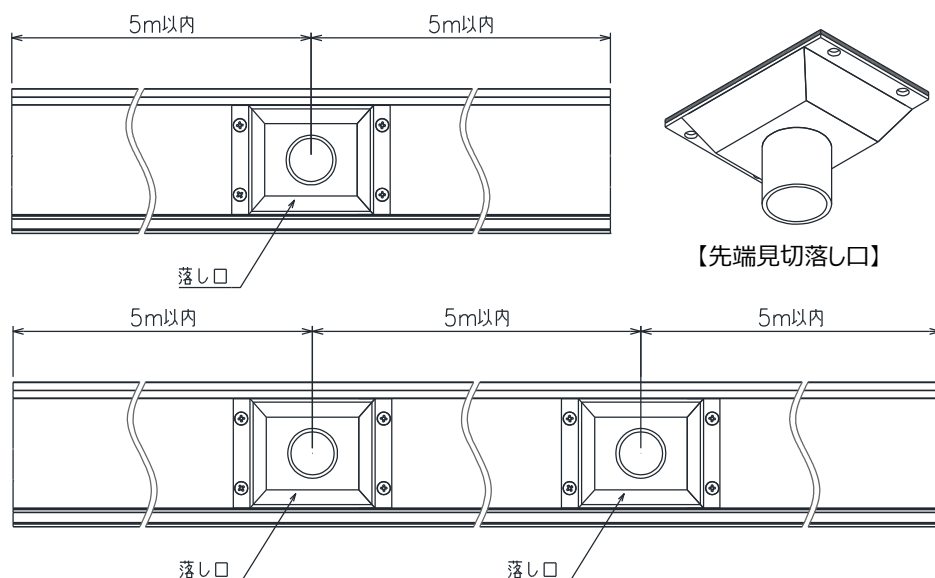


【 底本体が幅 5mを超える場合 】 KT 型 先端見切落し口 取付手順

1

先端見切材／天井面に先端見切落し口の位置を決めます。

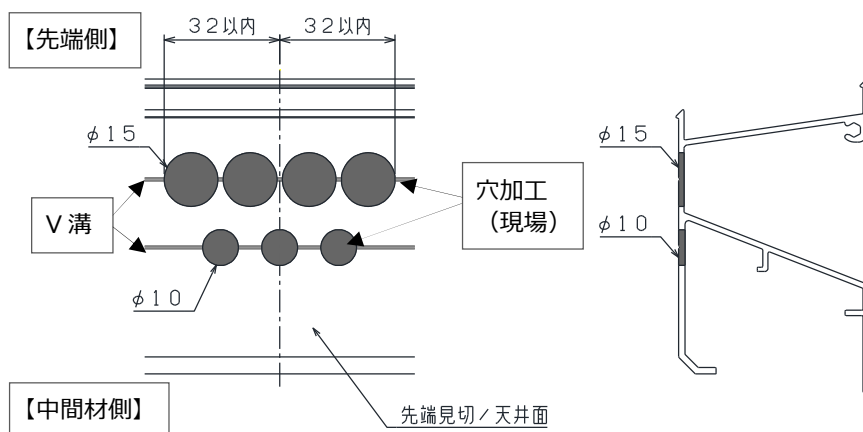
※**先端見切端部から落し口までの距離は 5m以内**にしてください。
また、**落し口間の距離も 5m以内**にしてください。



2

先端見切落し口の決めた位置から、
V 溝に沿って左右 32 mm以内に
φ15 を 4 箇所
φ10 を 3 箇所
の穴加工を行います。
(右図参照)

※漏水等の原因になりますので、
穴加工は所定の大きさ・数量を
守ってください。

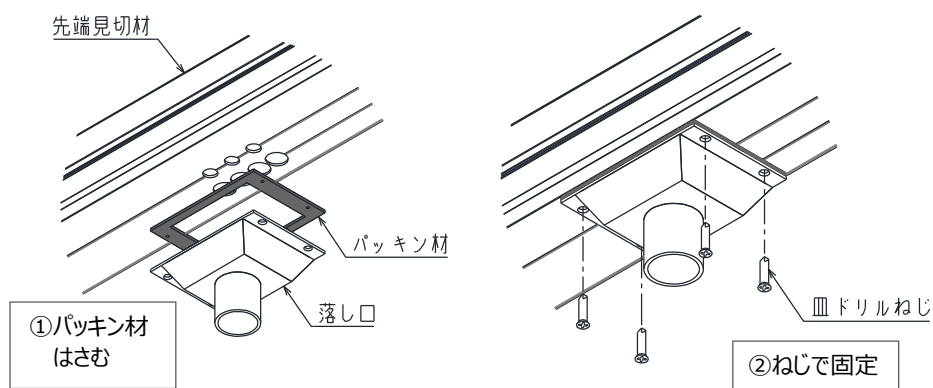


3

先端見切落し口を取付けます。

①先端見切材と落し口の間に付属
のパッキン材を挟み、②付属の皿ドリル
ねじで固定してください。
(右図参照)

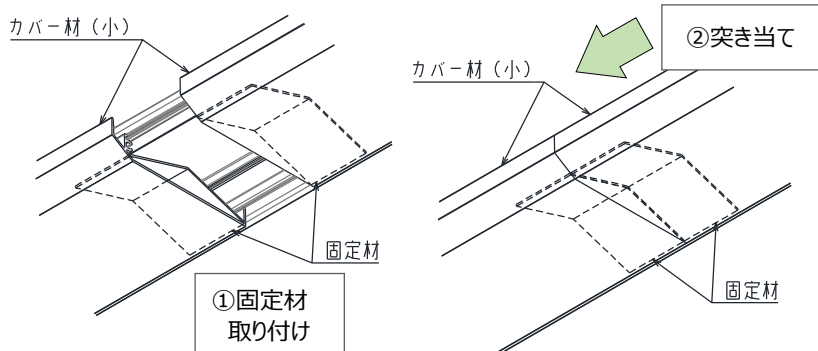
(用意するもの)
パッキン材、先端見切落し口



【 カバー材 (小) が 2 本以上つながる場合 】

①固定材をカバー材 (小) と壁軸材の隙間に
差し込んでください。連結するもう片方の
カバー材 (小) にも差し込みます。
②カバー材 (小) 同士を突き当てます。
(右図参照)

(用意するもの) 固定材



【 カバー材（大）が2本以上つながる場合 】

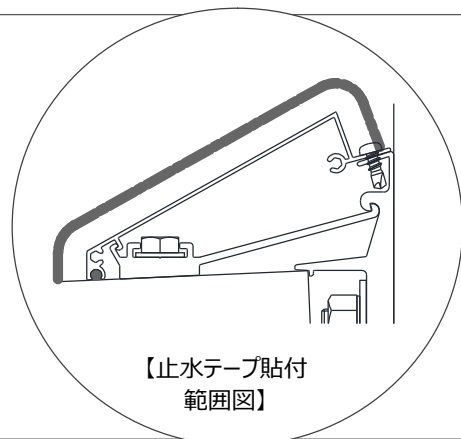
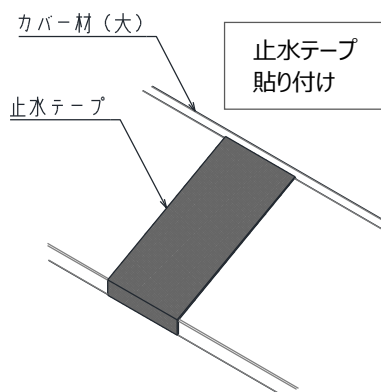
1

連結するもう片方のカバー材（大）同士を突き当てて、目地部分に止水テープを貼り付けます。

（右図／止水テープ貼付範囲図参照）

（用意するもの）

止水テープ

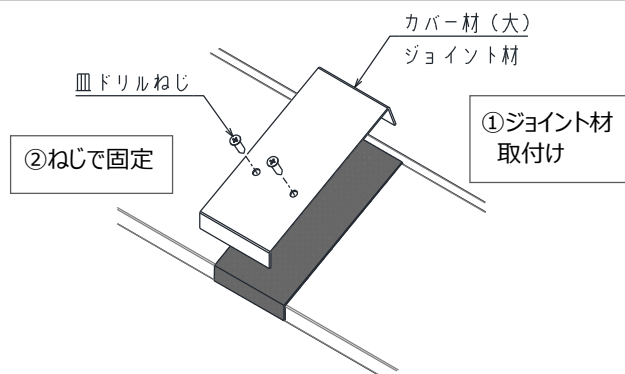


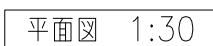
2

止水テープを貼り付けた部分に①カバー材（大）ジョイント材を被せ、②付属の皿ドリルねじで固定してください。

（用意するもの）

カバー材（大）ジョイント材、皿ドリルねじ





49

集水桟 95×66

落とし口: $\phi 30$

RS-KT型落し口詳細 1:5

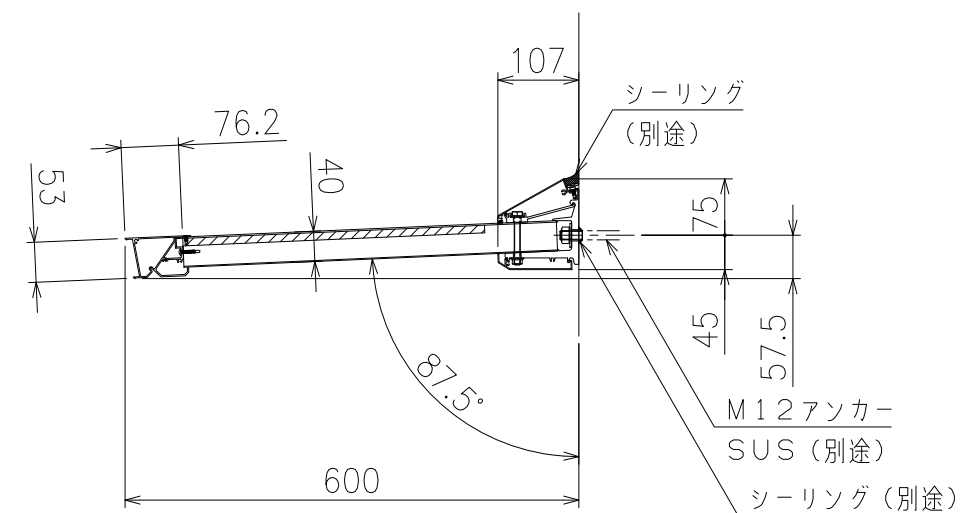
Figure 1 is a plan view of a wall cross-section. The wall has a total width of 100 units. The reinforcement consists of M12 anchor bars (M12アンカー位置) spaced at 200 units (アンカーピッチ@200). The wall is constructed with masonry (壁軸材). The reinforcement is located 50 units (100 units total) from the top and bottom edges. The wall thickness is 100 units.

アソカ-図

25

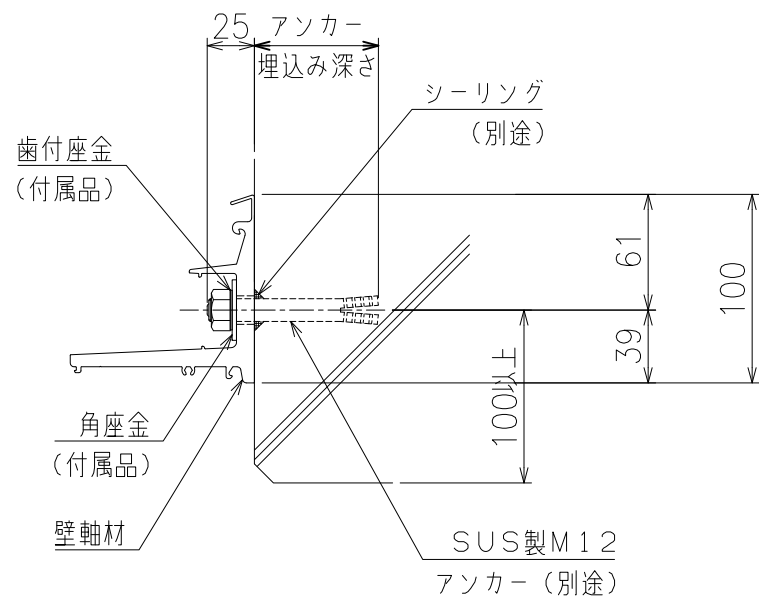
M12 アンカー
SUS (別途)

壁軸材アンカー取付要領 1:5

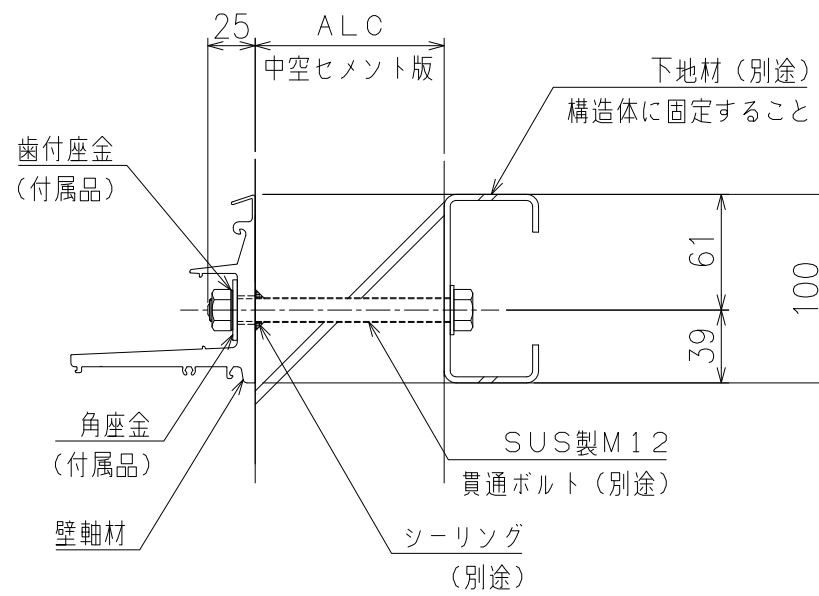


断面图 1:10

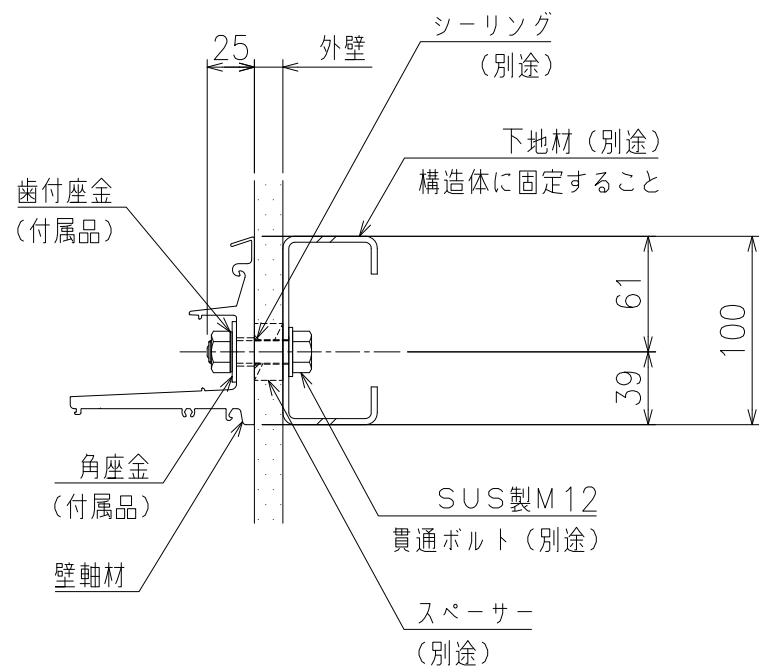
	尺 度 (scale) 1 : 5 1 : 10 1 : 30	図面名称 平面図・断面図・アンカー図	工事名称	日付 (date) 2015-04-02	頁 (page) /
		品目名称 アルミ製庇 RSバイザー RS-K型 D600		図面番号 (drawing number) 80-001408-00-3B	



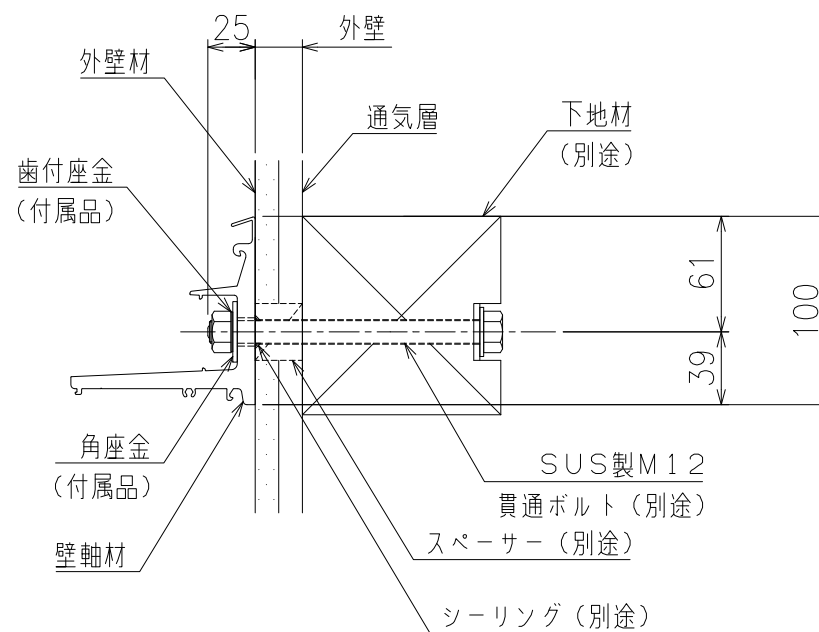
コンクリート下地に取り付ける場合



A L C ・中空セメント版に取り付ける場合



鉄骨下地に取り付ける場合



木下地に取り付ける場合

※注意！ 基本条件における一例です。施工の際は必ず現場条件に合わせ、十分な強度を確保した下地材・アンカーを御使用ください。
外壁に直接負荷が掛からないようスペーサーを入れてください。

	尺 度 (scale) 1 : 4	図面名称 RS-K型ステー無し 壁際納まり参考図	工事名称	日付 (date) 2014-07-28	頁 (page) 1 / 1
		品目名称 断面図		図面番号 (drawing number) 80-001072-00-3B	